

第20回「URUZO!」WG議事録

日時：2019年9月30日 19:00～21:00

場所：ふれあい歯科ごとう

出席：五島先生（ふれあい歯科ごとう）、南道代様（JR東京総合病院）、

藤崎（日本介護食品協議会）、的場（ハウス食品）、木田（マルハニチロ）、鈴木（ヤヨイサンフーズ）、

石場（明治）、三好（アサヒグループ食品）（敬称略）

◆課題

UDFの認知率や市場規模が大きく拡大する為、病院から在宅に戻る際に情報発信の可能性を検討したいが、病院における退院指導法や、退院セットに組み込んでいただくためのフローがわからない。

◆目的

病院から在宅に戻る際に、病院所属の管理栄養士から、患者や家族にUDFを伝えていただける可能性について、JR東京総合病院の南先生にヒアリングする。

◆ヒアリングメモ

【病院の状況】

- ・在宅訪問をしていない
- ・JR東京総合病院には退院指導専任の看護師がいない
- ・入院期間が短くなっているが、入院期間が長い患者の退院日はカルテで見ることができるため、必要とした患者に介護食等の情報を伝えることができる
- ・院内に置いてあるカタログはヘルシーネットワークのものが多い
- ・JR東京総合病院の看護師はUDFを知らない。管理栄養士は知っているが、院内の食事は学会分類で作られている
- ・食事の物性は、嚥下ゼリー2種類、ペースト2種類、きざみ食2種類、その他患者の状況に応じて常食を加工して提供している。
- ・摂食嚥下機能低下していて在宅に戻る患者は、およそ10人/月いて、サンプルを提供することは可能（サンプルセットを知らないという方もいるが・・・）
- ・学会分類からUDFに移る際、比較的やわらかい物性を勧める
- ・退院する前は、病院で通常出されている刻み食よりもかための刻みにとろみをつけた食事に移行する
- ・看護師が食形態を決定しており。摂食嚥下機能評価が必要な場合は、医師やSTとともに評価する。
- ・訪問看護室があり専従3名

【ご意見/ご提案】

- ・学会分類は分かり難い、一方UDFの区分表記は患者や家族にとっては分かりやすい
- ・UDFのパンフレットを病院におけるかもしれない
- ・UDFのマークは目につくが、区分文言は読まないとわからないため、色分けするなどの工夫が必要（例：マークや記号）
- ・キッセイ薬品やヘルシーネットワークが用意しているようなサンプルセット（腎臓病食）があるとよいかも（例：主食、おかず、デザート、カタログ）。

- ・サンプルセットを用意するのであれば区分ごとで作った方がよい
- ・サンプルセットを退院時に提供するにあたってのハードルは低い（特段手続きはない）
- ・看護師への試食会や勉強会の必要はある
- ・高齢者は通販利用を嫌う方もいる。住所や連絡先を知られてしまい、しつこい営業をされるのが嫌だというのが主な理由

◆今後の流れ

- ・院内試食会/勉強会を検討いただく
- ・試食会/勉強会に開催にあたり、訪問看護室、看護部、栄養管理室、リハ課、Dr 等々に打診いただく

◆次回 2019年11月1日（金） 19:00～@ふれあい歯科ごとう

以上

議事録作成：アサヒグループ食品㈱ 三好淳介

議事録確認者：URUZO！